

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	市川市立南行徳中学校 市川市南行徳2-2-2 電話047-397-5910
テーマ	市川版コミュニティ・スクールの設置について
実施形態 実施主体	オープンスクール、コミュニティサポート委員会と併せて実施 学校が主体となり実施
日時 会場	平成29年12月12日(火) 14:00~16:00 市川市立南行徳中学校 会議室
日程 流れ・進行	説明・情報交換
参加者	教職員 2名(校長・教頭) 保護者 4名(南行徳中学校保護者) 地域住民10名 その他 2名(市教委2名含む) 計18名
広報	開催通知案内の発送(保護者・地域)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行政説明 「市川版コミュニティ・スクールの設置について」 市川市教育委員会 生涯学習部 教育政策課 曾根 浩一 主任 学校教育部 学校地域連携推進課 大崎 誠 主査 ・各団体の情報交換会
保護者や地域 の方の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市川版コミュニティ・スクールの準備を地域と学校が協力して進める必要がある。 ・学区割りと自治会がリンクしていない状況で、どれだけ地域が学校と協働できるか不安だ。 ・既存の組織を“変えること”に対する明確な理由が必要だ。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の協働が、生徒への学びを深めたり、多忙化解消につながったりすることを期待する。 ・市教委による、地域への丁寧な説明が重要である。 ・教職員への周知をしたい。
その他 (テーマの背景、学校の工夫、今後の取組等)	<ul style="list-style-type: none"> ・市川版コミュニティ・スクール設置について、地域住民の理解を深めるために、パワーポイントや資料を適宜準備した。 ・より多くの地域住民の理解を求めるために、数回、実施したい。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	習志野市立第三中学校 習志野市袖ヶ浦4-3-1 電話047-452-0330
テーマ	「子供たちを取り巻く環境に焦点をあてて」
実施形態 実施主体	授業公開、学校評価、SNSに関するDVD視聴とグループ討議 学校が主体となり実施
日時 会場	平成30年1月19日（金）13:15～15:30 習志野市立第三中学校ランチルーム
日程 流れ・進行	挨拶・日程説明 13:15～13:25 授業公開（5校時）13:25～14:15 ミニ集会 14:30～15:30 ※学校経営概要説明、学校評価の後、SNSに関するDVDを視聴し、グループ討議 全体進行は本校生徒指導主任
参加者	教職員 7名（本校校長、教頭、生徒指導主任含む） 保護者 8名（PTA役員） 教育関係者 8名（県教委、市教委） 地域住民 18名（学校評議員、町会長、民生委員児童委員） 合計 41名
広報	対象者宛て通知
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSに関するDVDを視聴しての感想 ・ もし、中学1年生に入学する子供を持つ親に、スマホを持たせるべきかを問われたとき、どう答えるか
保護者や地域の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSのDVDはよくできており、その怖さを痛切に感じた。 ・ 日々進化しているSNSの知識に追いつくには常に最新の情報を学ぶ必要があり、子供も親も学習すべきである。 ・ グループ討議はとても熱心で、この地域のパワーが学校を支えている。 ・ 三中生の健全な成長のために、真剣な協議が重ねられていた。慎重なテーマ設定、進め方や内容のおかげである。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSについては、小学生にも指導の強化の必要性を感じた。 ・ SNSについて、小・中・高校、地域、保護者、県教委、市教委と様々な立場の人が話し合いをしたことの意義が大きい。
その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の子供たちのトラブルの中で、大きな部分を占めており、大人が見えにくい部分である。 ・ SNSの危険性について、生徒、保護者、地域への啓蒙活動をより一層広めていく必要がある。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」

学校名	浦安市立入船中学校 浦安市入船3-66-3 電話047-353-8502
テーマ	「手をつなごう、元気でやさしいこの街 入船」 第15回入船中学校区地域文化祭
実施形態 実施主体	入船中学校、入船小学校、入船南幼稚園、入船北保育園の合同学習発表会 入船中学校区の健全育成事務局と小中学校の学校支援コーディネーターが中心となり、誰でも参加できる地域行事を行う。異年齢交流を図り、地域に根ざした地域・学校・保護者が一体となって子供たちを見守る健全育成の環境づくりの場とする。
日時 会場	平成29年10月28日（土）10：15～15：00 入船中学校校舎、体育館、校庭（今年度は入船小体育館も使用）
日程 流れ・進行	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">授業公開 10：15～11：00</div> 参加、出演者（入船中学校生、入船小学校生） 参観者（地域の方々、保護者等） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オープニングセレモニー 11：00～12：00</div> 参加、出演者（入船中学校生、入船小学校生、一部入船南幼稚園児、入船北保育園児による発表 参観者（地域の方々、保護者等） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">模擬店、部活動体験、ステージ発表等 12：00～15：00</div> 【自治会等】による模擬店や発表、展示 中学生による部活動体験コーナー・模擬店の手伝い 取りまとめ：教頭、地域の方の取りまとめ：学校支援コーディネーター 進行：本校生徒会
参加者	教職員 70 名（各校・園の職員）、保護者 300 名、地域住民 200 名、児童生徒 1000 名 計 1,570 名
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりに掲載 ・地域の自治会全戸にチラシ配布 ・参加小・幼稚園・保育園にチラシ配布 ・ポスター掲示
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に児童・生徒の合唱発表、中学生の英語スピーチ、学習発表を見てもらい、日ごろの児童生徒の様子を知ってもらう。 ・地域文化祭の場として学校が中心となり、地域の人々が関わり合いをもち、支え合えるあたたかく、元気のある地域を育む。 →地域が見守る子供たち、子供たちがつなぐ地域の人々、地域と子供たちが育む居場所のあるふるさとづくり。
保護者や地域の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの様子がよくわかって良かった。子供たちから力をもらった。地域文化祭の活動を通し、大人同士も知り合いになることができた。今後、各自治会も出し物を検討し、協力していきたい。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化祭は地域の方との交流であり、生徒の学習活動を知っていただく良い機会だと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化祭は保護者だけでなくお年寄りから小さい子までの異年

(テーマの背景、 学校の工夫、今 後の取組等)	齡が集まり、参加した人からはまた来年も楽しみにしているとの声をいただくものである。今後は早めに参加者を募集し、広報活動もさらに積極的に行い、地域が主体となって取り組む文化祭になるよう計画していきたい。
--	--

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	野田市立南部中学校 野田市花井67 電話04-7122-2508
テーマ	地域の和を広げていじめや非行をなくそう
実施形態 実施主体	南部中学校区4校（南部小学校，山崎小学校，みずき小学校）の音楽発表会後協議会、南部地区少年を非行から守る推進協議会学校が主体となり実施
日時 会場	平成29年10月14日（土） 9:30～12:15 野田市立野田南部中学校体育館及びミーティングルーム
日程 流れ・進行	<p><オープニング>～開会行事 午前9時30分～午前9時50分</p> <p><第I部>～各小学校発表 午前9時50分～午前10時50分</p> <p><第II部>～中学校発表 午前10時50分～午前11時20分</p> <p><エンディング>～閉会行事（全体合唱含む） 午前11時20分～午前11時35分</p> <p><南部地区少年を非行から守る推進協議会>～協議会 午前11時45分～午後0時15分</p>
参加者	音楽会参加者のうち協議会参加者は、地域住民および地域諸団体代表者12名，保護者2名，教職員6名（校長4名・教頭2名），学校評議委員4名，県教育庁職員2名，計26名
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・開催要項を，南部地区4小中学校の保護者，南部地区54自治会，地域9団体に配布 ・南部中学校だよりと南部中学校ウェブページで案内
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が作った防犯標語から各校3点の紹介及び表彰 ・野田市南部地区四小中学校の発表 ・子どもたちの健全育成と地域の諸団体との連携について
保護者や地域の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に支えられながら取り組む姿勢が見られ，行事をとおして地域の和が深まるとともに子どもたちの成長にもつながっている。 ・南部地区で以前手がかかった児童生徒が，更生している事例も見られる。このような行事の意味は大きい。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が音楽を通じて成長する場面にもなっている。 ・音楽を通じて地域の方々が一堂に会する場となっている。 ・「学校を核とした地域コミュニティの構築」の一助でもある。

その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組 等)	・音楽を通じて、地域の子どもたちの健全育成を図ることを目的に、南部中学校区4校の音楽発表会を開催している。あわせて、地域の和を広げる目的もある。本会については、平成6年から実施(当初は3校)しており、今年24回目となる。
---	--

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	白井市立南山中学校 白井市南山1-6-1 電話043-492-1441
テーマ	本校の教育活動と新学習指導要領 (社会に開かれた教育課程とは)
実施形態 実施主体	授業公開、グループ討議 学校が主体となり実施
日時 会場	平成29年12月2日(土) 9:30~11:30 白井市立南山中学校 研修室
日程 流れ・進行	授業公開(2校時の一部) 9:45~10:15 ミニ集会 10:15~11:30 学校より説明、3グループで協議
参加者	教職員 3名(校長・教頭・生徒指導主事) 学校評議員3名 保護者 2名 地域住民 8名(民生児童委員、自治会長) 教育関係者2名(近隣高校教頭、市教委) 合計18名
広報	・文書依頼(学校評議員、民生児童委員、自治会長、白井高等学校、本校PTA)
内容	・学校紹介映 ・本校の教育活動紹介 ・学校評価(説明) ・新学習指導要領と地域社会との関わり(説明・協議) 中学生にどのような力を身につけてもらいたいのか。 中学生の成長のために、地域社会と学校はどのような連携や関わりを持てるのか。
保護者や地域 の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中学生と話をする機会が少ないので、学校でそのような機会を設けてほしい。 ・あいさつする習慣を付けてほしい。 ・中学生の積極的に地域の自治会活動に参加し、高齢者や地域住民との交流を図ってほしい。(例:資源回収等で、中学生が高齢者の家の新聞等を回収する、町会の清掃活動に参加する等) ・地域の高齢化が進んでいるので、「人と人との関わり」をつなげていくような働きを学校中心で進めてほしい。 ・保護者や地域の方が中学生に自分の仕事について、話をする機会を設け、地域理解、キャリア教育に生かすのもよいのではないか。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・土日は部活動があるので、地域行事の参加は少し難しい。 ・地域の方々が学校に来られる機会を増やしていきたい。
その他 (テーマの背景、 学校の工夫、	・新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」を紹介し、現在の教育の動向を地域の方々に画像を利用し、わかりやすくなるよう説明し、地域と学校の連携に理解を求めた。

今後の取組等)	<ul style="list-style-type: none">・ 高校職員の参加も呼びかけた。・ グループ協議を取り入れた。
---------	--

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	香取市立栗源中学校 香取市岩部1051-1 電話0478-75-2034
テーマ	「地域とつながる子どもたち」 ～保護者・地域から見た生徒の様子の情報交換並びに学校への意見要望～
実施形態 実施主体	講演会、意見交換 学校主体
日時 会場	平成29年10月11日（水）15:00～17:00 香取市立栗源中学校体育館・ミーティングルーム
日程 流れ・進行	講演会（香取健康福祉センター職員）15:00～16:00 ミニ集会 16:10～16:40 小グループに分かれての意見交換、グループごとの発表 全体進行は本校教頭、グループ内は本校職員が進行担当
参加者	教職員 3名 保護者 5名 地域住民 10名 教育関係者 2名 学校評議員 3名 地域保護司 5名 合計28名
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者宛て通知 ・学年通信に掲載 ・学校通信に掲載し、地域にも回覧 ・学校評議員に出席を直接依頼
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「薬物乱用防止教室 危険ドラッグについて」 ・学校評価アンケート結果をもとにグループ討議、発表
保護者や地域 の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中であいさつがよくなるようにしたい。 ・地域行事が減ってきているのではないか。触れ合いの機会を大切にしたい。 ・危険個所の点検を地域で行い、対策を立てるべきである。 ・不審者対策として、地域全体で見守るようにしたい。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での子どもたちの様子をさらに情報交換したい。 ・登下校の通学路における危険個所の実態を把握したい。
その他 （テーマの背景、学校の工夫、今後の取組等）	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を校内で積極的に行っている。地域の中でも進んで実行できるようにする。 ・PTA安全指導部による危険場所調査会議で出された危険個所について、外部機関とも連携し対策を講じたい。 ・ミニ集会を機会に、地域全体で子どもたちを見守り、育むという意識が高まった。

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	山武市立松尾中学校 山武市松尾町松尾112 電話 0479-86-4411
テーマ	「避難所としての学校の役割と運営について」 ～地域とともに歩む学校づくり～
実施形態 実施主体	1 全体会，講演会（講師：日本防災士会千葉県北部支部） 2 グループ協議 学校が主体となり実施
日時 会場	平成29年12月5日（火）15：30～17：00 山武市立松尾中学校 ICTルーム
日程 流れ・進行	講演 15：30～16：00 グループ討議 16：00～16：45 グループ発表 16：45～17：00 全体進行：教頭 グループ協議進行：本校職員・PTA役員
参加者	・近隣小学校，高等学校校長，教頭，教員 4名 ・本校教職員 6名 ・地域住民 11名 ・保護者 4名 ・関係機関 4名 合計 29名
広報	・出席を直接依頼 ・学校ホームページに掲載 ・学校だよりによる呼びかけ
内容	・講演「地域での自助・共助による防減災」 講師 日本防災士会千葉県北部支部 災害時における避難所としての学校の役割について 避難所の運営について ・グループ協議 避難所に行く（滞在する）際の不安，疑問点 避難所の運営は誰が何を行うのがよいか
保護者や地域 の方々の意見	・災害時の避難行動のあり方について深く考えるよい機会となった。家で家族とも話し合いたい。 ・地域で避難所の運営について，役割分担や必要なものについて考えていきたいと思う。 ・防災に関するさまざまな情報を得ることができた。 ・避難所の運営マニュアルを市で作成し，地区ごとに確認する必要を感じた。
教職員の意見	・学校本来の優先行動を地域の方々と共有，確認できたのはよかった。 ・学校職員だけでは対応できないので，地域の方々との連携が必要である。

その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組 等)	<ul style="list-style-type: none">・市の防災課を中心に避難所に指定されている近隣の学校と連携を図り確認する必要がある。・避難所となる学校の受け入れ体制や運営方法についてのマニュアルが必要である。
---	---

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	横芝光町立光中学校 山武郡横芝光町宮川5883 電話0479-84-1545
テーマ	生徒のSNSトラブルについて ～大人が学ぶインターネットとの付き合い方～
実施形態 実施主体	講演会、全体会（班別協議 含む） 学校が主体となり実施
日時 会場	平成30年2月22日（木）13:25～15:35 横芝光町立光中学校 体育館
日程 流れ・進行	講演会 13:35～14:35 ミニ集会 14:45～15:35 保護者と教員、教育関係者、地域ボランティアで編成した班別において情報及び意見交換 進行はPTA本部役員
参加者	講演会は、全校生徒参加 教職員 9名 保護者 9名 教育関係者 1名 地域住民（地域ボランティア） 1名 合計 20名
広報	・保護者宛て通知 ・学校だよりに掲載 ・学校のHPに掲載 ・出席を直接依頼
内容	・講演会 講師からSNS利用の課題について講話を受ける。 ・班別協議 保護者、教員、教育関係者、地域ボランティアが子育ての中でSNSについてどのように子どもに指導しているか、情報及び意見交換を行う。
保護者や地域の方々の意見	・講演の内容で、SNS上でのいじめや、リベンジポルノの被害等、具体的な話があったが、家庭では思春期の子に対し、そこまで踏み込んだことを話していなかった。また、話しにくい現状がある。講師から生徒にわかりやすく直接、話があったことが良かった。 ・SNSの既読の問題（すぐに既読がつかないといけない）について、子どもが自動で既読になるソフトを入れて対応している。
教職員の意見	・家庭のルールは、目に付く所に貼っておくのも一案だ。 ・SNSトラブルは、対応までの時間が大切なので、子どもが相談しやすい環境をつくるためにも、普段からスマホの会話を行い、子どもとの信頼関係をつくるのが大切だ。
その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組 等)	・スマホの所有率も年々上がり、トラブルの報告もある。 ・SNSトラブルについて保護者に理解を得た。 ・トラブルについては、学校間、保護者で情報を共有していく

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	館山市立第二中学校 館山市長須賀136 電話0470-22-0531
テーマ	「地域を取り込んだ学校教育」
実施形態 実施主体	全体会、情報交換会 学校が主体となり実施
日時 会場	平成29年11月2日(木) 18:00~21:00 館山市立第二中学校多目的室
日程 流れ・進行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校長あいさつ ・ 自己紹介（地域の様子・感想等を含めて） ・ 学校の概要と現状説明 <ul style="list-style-type: none"> ○ 概要について <ul style="list-style-type: none"> （1）経営説明（校長） （2）子どもたちの様子（教頭） <ul style="list-style-type: none"> ・ 館山二中の1日 ・ 主な行事 ・ 学校評価アンケート結果より ○ 現状について（各学年主任） ・ 地域の子供たちの様子（館山警察署：生活安全課より） ・ 情報交換
参加者	地区連合会，民生員，防犯協会，青少年相談員、保護者等 合計30名
広報	・ 保護者宛て通知 ・ 学校だよりに掲載
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館山二中の経営方針 ・ 主な行事 ・ 学校評価アンケート結果より ・ 地域の子供たちの様子（館山警察署：生活安全課より） ・ 情報交換会
保護者や地域 の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にでたときに，生徒が挨拶をすることが見られるようになってきた。 ・ 地域内にある交差点の信号に対する渡り方の確認があった。 ・ 地域の祭礼に，学校職員と保護者で協力して見回り活動を行えたことはよかった。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上に向けて，学校と家庭と協力して取り組んでいく。 ・ 生徒を地域の方々にも見守ってもらえていて，とてもありがたい。

<p>その他 (テーマの背景, 学校の工夫, 今後の取組 等)</p>	<ul style="list-style-type: none">・学校と家庭とが協力して，生徒を育てていく。・学校の情報を積極的に地域に発信していく。
--	--

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	館山市立房南中学校 館山市佐野2070 電話0470-28-0042
テーマ	心の健康教育「子どもたちの心のケア」
実施形態 実施主体	中学校区（房南小学校）合同開催 全体会・座談会 小中学校職員と学校管理医が主体となり実施
日時 会場	平成29年8月21日(月) 13:30～15:00 館山市立房南中学校多目的ホール
日程 流れ・進行	全体会13:30～14:00 座談会14:00～15:00 全体進行は本校教頭、座談会は学校管理医
参加者	教職員35名、保護者10名、地域住民5名 学校管理医1名、学校歯科医2名、学校薬剤師1名 市教委1名、給食センター栄養教諭1名、保健師1名 合計57名
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者宛て通知 ・学校便りに掲載し地域にも回覧
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断や体力テストの結果報告、心のケアの取り組み報告 ・座談会「子どもが学校へ行きたくないと言い出したり、体調不良を言い訳に休みがちになったりしたら・・・家庭ではどのような対応をとりますか？先生はどのような対応をとりますか？」
保護者や地域 の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが行きたくないと言い出したら、理由を話してくれるまで待ちたい。気分転換をさせたい。 ・子どもにとって親はどんなときも味方でいて欲しい存在。 ・昔は「学校に行きたくない」という発想が子どもにはなかった。「行くもの」というすりこみがあった。 ・日本人は平均（みんなの中）に入ればいいという考えが多く、そこから外れると慌ててしまう。親は不安でパニックになる。
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校は年々増加している。決して他人事ではない。 ・家庭と学校との連携が重要。 ・行きたくない原因を聞き出し、不安を取り除くことができればすんなり登校ができることもあるが、対応は難しい。
その他 (テーマの背景, 学校の工夫, 今後の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・学園となり小中連携をする中で、地域の皆様やいろいろな先生方の目で子どもたちを見ることが可能になりました。誰かが気づき、誰かが寄り添い、対応の幅が広がりました。今後も情報交換を密にし、家庭・地域・学校が一体となって子ど

等)	もたちを育てていきます。
----	--------------

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	市原市立千種中学校 市原市千種6-1-1 電話0436-21-2918
テーマ	「学校・家庭・地域・関係各機関」と共に育てる千種っ子 「千種の子どもたちに伝えたいこと ～地域の大人たちから子どもたちへ～」
実施形態 実施主体	千種中学校区小中（千種小学校）合同開催 千種地区青少年育成会 各町会（13町会） 分科会では、千種中の30周年行事にからめ、テーマに基づいて話し合いを行った。
日時 会場	平成29年7月29日（土）19:00～21:00 千種コミュニティーセンター ※30日（日）も開催
日程 流れ・進行	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会 主権者あいさつ 趣旨説明 千種小、千種中の今年度の取り組み ・分科会（地区ごとに3分会） テーマに基づいた意見交換
参加者	千種地区青少年育成会会長 小中保護者 小中教職員 各町会長 地域住民 合計145名
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を直接依頼 ・学校だよりに掲載し地域にも回覧 ・通知文
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の現状や課題などの情報交換と意見交換 ・小中学校での現状や課題などの情報交換と意見交換 ・「あいさつ」や「携帯電話の使用」についての子どもたちの使用状況、学校での指導、家庭での約束等の意見交換。
保護者や地域 の方々の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は大切。今後、より充実を図りたい。地域で顔を知る。 ・地域を巻き込んだ行事を行いたい。 ・地域の子どもたちが落ち着いてきた。 ・SNS：学校、家庭でのルール作りを協力する必要あり。 ・不審者等、安全面の指導の徹底を（学校・家庭）
教職員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの地域の方、保護者の方の参加があり、地域の子どもたちを共に育て見守っていかうとする熱意が感じられた。 ・学校区の地域住民・保護者との信頼関係づくりの重要性とさらなる強固な関係づくりへの意欲の高揚が再確認できた。
その他 （テーマの背景、 学校の工夫、	<ul style="list-style-type: none"> ・千種中学校30周年という節目の年であり、学校を支えてくださった地域の方々に、「感謝」をテーマにボランティアや「あいさつ」を中心とした児童・生徒の活動を小中連携で力を入

今後の取組等)	れていく。
---------	-------

「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」実践例

学校名	富津市立天羽東中学校 富津市上後395 電話 0439-68-0024
テーマ	「輝く生き方」について考える
実施形態 実施主体	天羽東中学校区小中（環小学校）合同開催 講演会と併せて実施 本校の生徒会とPTA(研修教育委員会)が主体となり実施
日時 会場	平成29年12月6日（水）13:30～15:40 富津市立天羽東中学校体育館
日程 流れ・進行	第1部 教育講演会 ①開会の言葉 ②プロローグ ③講師紹介 ④講演「夢へのステップ」(山岸佐知子氏) ⑤質疑応答 第2部 「輝く生き方」意見発表会 ①天羽東中学校2年生 ②平成25年度本校卒業生 現大学生 ③千葉県警察 関豊駐在所勤務 ④地域在住 グラウンドゴルフ県大会1位 ⑤お礼の言葉 ⑥閉会の言葉 全体進行は、本校生徒会役員
参加者	児童生徒 70名 教職員 14名（各校の校長及び教員を含む） 保護者 7名 学校評議員 4名 地域住民 11名 合計 106名
広報	・保護者宛て通知 ・学校だよりに掲載し地域にも回覧 ・学校のHPに掲載
内容	・講演「夢へのステップ」・質疑応答 ・在校生、卒業生、保護者、高齢者によるテーマに関わる意見発表
保護者や地域 の方々の意見	・将来の地域・日本・世界を担う活躍が期待される子どもたちに、「輝く生き方」とは常に前向きに全力で努力することだと考えさせる良い機会であったと思う。 ・失敗、挫折、アクシデントがあっても前向きに生きることの大切さを私自身学ぶことができた。
教職員の意見	・自分の人生にプライドを持って生きたいと思った。 ・常に上のステージに向けて努力を続ける姿勢が素敵だ。

その他 (テーマの背景、 学校の工夫、 今後の取組 等)	<ul style="list-style-type: none">・生徒の主体的な活動を保証し、「出来るようにして褒める」教育活動を展開し自己肯定感を高め、活動意欲を高めたい。・輝いて生きている（夢を追い続けている）人を招聘し、生の声を聴き、何かを学び取ってほしいと考えている。・小学校と連携し、1月に第3回「輝く生き方」集会を実施。
---	--